

徐である。5) *in vitro* のステロイド生合成実験：腫瘍の生化学的検索では testosterone, 5- α -androgen などの生成が認められた。

独創点：男女両ホルモン産生能を有する本邦初の男女化腫瘍を多方面より検索し報告した。

31. hCG 産生 Dysgerminoma—酵素抗体法による hCG の局在性と LcH affinity chromatography による hCG の性状分析

(兵庫医大)

大原敬太郎, 宮本由起子, 武田 守弘

竹村 正, 磯島 晋三

目的：Dysgerminoma は胚細胞性腫瘍の中では比較的発生頻度が高いが、hCG 産生を伴う症例の報告は稀である。今回、新生児頭大の卵巣腫瘍で尿中に hCG の排泄が認められ、組織学的に Dysgerminoma と診断された極めて稀な症例を経験したので、その臨床経過と酵素抗体法による hCG の局在性と LcH affinity chromatography による hCG の特異性について報告する。

方法：卵巣腫瘍の診断は内診と共に超音波診断法を用いて確定した。腫瘍組織での hCG, β -hCG の局在性の検索は間接酵素抗体法 (PAP 法) によった。LcH affinity chromatography には CNBr で活性化した Sepharose 4B ゲルに LcH 5mg/ml ゲルの割合で結合させて作製した LcH 結合 Sepharose 4B カラムを用いた。検体尿を透析後カラムに加え、LcH 非結合分画が溶出した後、LcH 結合分画は 2%mannoside 溶液を加えることにより溶出させ、両分画の hCG 免疫活性は radio-immunoassay 法により測定した。

成績：組織標本では Dysgerminoma の中に一部集合して分布する Syncytiotrophoblast-like cell を認め、酵素抗体法による hCG の局在性はこの Syncytiotrophoblast-like cell の分布とよく一致した。 α -fetoprotein についても検討したが Syncytiotrophoblast-like cell 及び Dysgerminoma cell のいずれも陰性であり、WHO 分類での Endodermal sinus tumor 及び Embryonal carcinoma は否定された。尚標本中には Cytotrophoblast-like cell は認められなかった。LcH affinity chromatography による hCG の分析では従来より報告してきた絨毛癌産生 hCG のパターンとよく類似し、LcH 非結合性の hCG の割合が高かった。

結論：本症例は、組織学的には H.J. Norris ら (1981) の提示した Dysgerminoma の subtype に分類される。本症例の hCG はその腫瘍の成分である

Syncytiotrophoblast から産生され、その性状は絨毛癌産生 hCG と類似性がみられた。

質問 (神立大) 望月 真人
asialo hCG の検出はされてませんか。

回答 (兵庫医大) 大原敬太郎
ascitic hCG の検索は行っていない。

回答 (兵庫医大) 竹村 正
compound type の場合、endodermal sinus, chorio-carcinoma, dysgerminoma が混在するが、本例は dysgerminoma, syncytio trophoblast のみより成るので 1981, Norris 等が提示した dysgerminoma の subtype に属すると考えられます。

32. ヒト yolk sac, 胎児組織および腫瘍組織における α -fetoprotein の局在の形態学的検討

(順天堂大・病理) 田中 温

(順天堂大) 古谷 博

目的： α -fetoprotein (AFP) は yolk sac や胎児肝で産生されるのみでなく、卵巣や睪丸に発生する胎児性癌や肝細胞癌にも出現することが報告されている。今回我々は AFP 産生腫瘍の発生機序の解明の一端としてヒト yolk sac, 胎児組織および腫瘍組織における AFP の局在を酵素抗体法にて同定し、その細胞を形態学的に検討した。

方法：妊娠 5~21 週にて人工妊娠中絶した胎児、妊娠 5~11 週の yolk sac, AFP 産生を認める卵巣腫瘍、睪丸腫瘍、奇型腫および肝細胞癌を対象とした。各組織内 AFP の局在は P. Nakane の方法に準じた酵素抗体法にて光顕および電顕学的観察を行った。

成績：① yolk sac では立方形、類円形の endodermal cell, 嚢胞を形成する一層の扁平な細胞、網目状構造内の分泌物および exocoelomic membrane に陽性像を認めた。② 胎児組織では肝細胞と一部の胃腸粘膜細胞に陽性像を認めた。③ AFP を産生する卵巣腫瘍、睪丸腫瘍および奇型腫では yolk sac の基本構造に類似した loose vacuolated network, cystic structure および endodermal like cell に主に陽性像を認めた。④ 肝細胞癌では分化度の低い組織に強い反応を示す傾向を認めた。⑤ AFP 陽性細胞の電顕学的観察では主に小胞体に局在を認めた。

独創点：① AFP の局在をヒト yolk sac, 胎児組織および AFP 産生腫瘍を用いて系統的に比較検討した報告は数少ない。② AFP 産生 embryonal carcinoma は yolk sac を由来として発生することが推測できた。③ AFP 産生肝細胞癌の細胞と胎児肝細胞とを比較検討した。